

令和7年度 学校評価書(共通) 後期

校名 宇和島市立番城小学校

1 自己評価書

教育目標 自他を大切に、共に考え解決していく児童を育てる					
基本方針 「がんばれ」～自分に、そして友達に送るエール～					
本年度重点目標 1 社会総がかりで取り組む教育の推進 2 確かな学力を育てる教育の推進 3 豊かな心、健やかな体を育てる教育の推進 4 安全・安心な教育環境の整備 5 互いの人権を尊重する教育の推進と児童の健全育成					
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
確かな学力の定着と向上	① 全国学力・学習状況調査及び市標準学力調査の活用	各調査の分析結果を基に、「身に付けさせたい力(学習の目標)」の明確化を図り、組織的に推進することができた。	・分析資料の作成	A	B
			・具体的な対策の実施	B	
	② 授業改善	主体的・対話的で深い学びの実現に向け、授業モデル「N見方・考え方を変える」を視点に授業改善に努めた。 ねらいを明確にした分かる授業を行った。 一人1台端末(iPad)やEILS(コンテンツバンク等)の活用により、個別最適な学びを推進したり学習内容の定着を図ったりした。	・教師アンケート	B	B
			・保護者アンケート	B	
			・児童生徒アンケート	B	
	③ 家庭学習の充実	家庭との協働により、授業と連動させた家庭学習の充実に努めた。	・教師アンケート	B	B
			・保護者アンケート	B	
	④ 読書活動の充実	読書に対する関心や意欲が高まるような取組や声掛けを積極的に行った。	・教師アンケート	B	B
			・保護者アンケート	B	
	⑤ ふるさと学習及びESDの推進	社会や地域の課題解決や活性化に向けた活動及び調べ学習等を通して、地域に対する誇り・愛着の醸成や、持続可能な社会を創造しようとする児童生徒の育成に努めた。	・教師アンケート	B	B
・保護者アンケート			C		
<p>(成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読書に関する学校での取組や家庭での声掛けにより、少しずつではあるが児童が読書に取り組む場面が増えてきた。 ・地域の方々に授業に参加していただき、交流しながら学習を深めることができた。 ・タブレット端末の充電がうまくいかず、授業の中での活用が難しい場面があった。 <p>(改善策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々に授業に参加していただくことによる効果は大きい。児童にとって学習を広げ、深めることにもつながるため、積極的に教育活動に位置付けていきたい。 ・今後、ICT機器の更新が行われるが、児童がルールを守って効果的に活用ができるよう、本年度のうちに教職員の研修を進めていき 					
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
生徒指導の充実	① 規範意識の向上	規範意識を高めるための共通理解、共通実践に努め、児童生徒の行動規範が高まってきた。	・教師アンケート	B	B
			・保護者アンケート	B	
			・児童生徒アンケート	A	
	② 児童生徒の健全育成	児童生徒に寄り添った対応を行うとともに、児童生徒同士の人間関係づくりや仲間意識に支えられた集団づくりの推進に努めた。	・教師アンケート	B	B
			・保護者アンケート	B	
		不登校の未然防止や状況改善に向けて、校内体制の整備と早期対応に努め、チームとして取り組んだ。	・教師アンケート	B	B
			・保護者アンケート	B	
	③ 関係機関との連携	スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー、こども支援教室わかたけ等の積極的な活用を心掛けた。	・教師アンケート	B	B
			・保護者アンケート	B	
	④ 自己肯定感等	自己肯定感を涵養する取組の工夫・改善を具体的にに行った(自分にはいいところがある)。 自己有用感(人の役に立っている)や達成感を醸成する取組により、子どもの意識に変化が見られた。	・教師アンケート	B	B
・児童生徒アンケート			B		
<p>(成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チームとして諸問題に対応することにより、保護者としてしっかり連携して児童の指導に当たることができている。 ・規範意識が十分に身に付いていない児童、配慮を要する児童に対して、粘り強く指導を続けていく必要がある。 <p>(改善策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育活動の中で、意図的に児童への肯定的なフィードバックを行うとともに、よくない行為については毅然として指導しつつ、児童の思いはしっかりと聞き取るよう改めて共通理解して指導に当たっていくようにする。 ・校内での報告・連絡・相談を十分に行い、必要に応じて関係諸機関の助言を受け、連携しながら対応していくよう努めたい。 					

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満

評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価	
働き方改革	①	ワーク・ライフ・バランス	時間外勤務が月80時間を超える教職員ゼロを目指し、校内で設定した業務改善施策を基に、組織的な働き方改革に努めた。	・教師アンケート ・「出勤・退庁調査」の分析と活用	B B	B
	②	働きやすい環境づくり	「何でも相談し合える雰囲気づくり」「経験の浅い教職員を皆で支える雰囲気づくり」など、温かく働きやすい職場づくりに努めた。(枠を移動しました。)	・教師アンケート	A	A
			休業日の設定を含めた計画的な課外活動や部活動等の適切な運営がなされた。	・教師アンケート	B	B
	③	他の教職員のサポート体制の充実	教職員同士が仕事を手助けしたり、スクールサポートスタッフ、地域人材などを積極的に活用したりして、職場の仕事のサポート体制が充実した。	・教師アンケート	A	A
<p>(成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員が一人で抱え込むことがないよう、互いにサポートし合いながら教育活動に取り組むことができた。 ・時期にもよるが、繁忙期でないときは早めに退勤しようとする教職員が増えた。しかし、教職員の平均の超過勤務時間が約50～60時間であるため、業務の精選、業務の効率化を今まで以上進めていく必要がある。 <p>(改善策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・限られたリソースの中で業務に当たっていることを意識し、持続可能な教育活動が推進できるよう啓発をしていきたい。 ・ICT、AI、グループウェア等の利活用についての研修を行うことで、業務の効率化を図りたい。 						
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価	
地域との連携	①	学校運営協議会の活性化	全教職員に対して、学校運営協議会の役割・目的の周知徹底に努めた(校内体制)。	・教師アンケート	B	B
			学校運営協議会・地域学校協働活動の活性化(地域・保護者へ)を図り、熟議等の結果を基に、地域の力を学校運営に生かすよう努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・地域アンケート	B B B	
			②	情報発信	家庭や地域に対して、教育活動に関する情報を、文書やホームページ等で積極的に発信した。	
	③	来校・相談体制	来客・電話対応を丁寧に行い、保護者や地域の方々の声をしっかりと聞くことで、来校しやすく、相談しやすい体制・雰囲気づくりに努めた。			・教師アンケート ・保護者アンケート ・地域アンケート
<p>(成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページによる情報発信がほぼ毎日できており、保護者、児童等が閲覧を楽しみにしている。 ・「つながるLINE for LINEスクール連絡帳」を活用することにより、保護者、教職員双方の負担軽減につなげることができた。 ・電話対応のファーストタッチでは全教職員丁寧な対応を意識しているが、情報の伝達がうまくいかなかったケースが何回もあった。 <p>(改善策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域学校協働活動の活性化のために、広報活動を工夫して行っていくようにしたい。 ・教職員に対しての地域学校協働活動についての研修を行う必要がある。 ・情報を確実に担当者で共有するために、メモの活用や対応の引継ぎがきちんとできるよう教職員の意識を高めていきたい。 						

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満